



右：家の顔となる玄関。奥には寝室やご両親のための和室を準備している
左：ご主人が「司令塔」と呼ぶキッチン、奥さんの指定席であり、一番眺めのよい特等席。ここが家の中心になるように設計がなされている。その奥には子ども部屋と水まわり、蔵への入り口を配した

L字型のスキップフロアに囲まれた、広々としたLDK。
家族が集まる一番大切な場は、光に満ち、開放的な空間になっている



公園から見た house@kb。2階部分がLDKになっている



「娘たちも成長し、家族みんなでの時間を良い思い出でいっぱいにしてやりたい。何より妻が満たされた時間を過ごしてくれるようにしてあげたい」

僕はそんなクライアントの言葉を抱きながら車を走らせ、土地探しに歩くところから、このプロジェクトがスタートした。

敷地は札幌の西岡丘陵地、東に公園、西に緩やかに傾斜し、藻岩山が眺望できる位置に見つけた。この場所は角地という立地から公園と街路、敷地の3つを合わせるととても広い空間になる。この広い空間を室内で感じ取るポジションはどこか…。公園の緑や藻岩の山を眺望できるポジションは…。街路にやや近い場所にそのスペースを見つけ、そこにリビングとキッチン配置した。家族のベストポジションはコミュニケーションの場であり、奥さんが家事の合間に光や緑を感じながら日々を過ごすことが出来る。

ただ、このプランを実現させる上でいくつかの問題点も生じた。1つは建物のポジションを街路に接近させた事で生じる圧迫感だ。しかしこの「地域と建築との関係」はコーナー窓により解決できると考えた。

地域に開かれた窓は、建物コーナーの緊張を開放し、建物のボリュームを抑えてくれる。しかもそれは景色を建物内に取り込むビューデッキとなり、内と外をつなぐプラットフォームにもなる。室内に生まれたこのスペースは愛犬のお気に入りの場所で、小さな番犬として怪しい人がいないか地域を見張ってくれている。また、コーナー窓は、横に伸びるハイサイドライトへとつながる。空に向かって大きく開いた横長の窓からは、太陽光が燦々と降り注ぎ、光とエネルギーを室内に導く。また、見上げた窓には鳥が飛び、陽が落ちると夕焼けに染まった雲が流れ、夜にはキラキラ輝く星空が広がる。札幌近郊も住宅で一杯だが、ふと見上げるとまだまだ素敵な北の天空が広がっていて、捨てたものではない。

クライアントの家族への深い愛情を感じ、家族との絆を育て・つなげるための住宅を目指し設計した。

(文/山下 一寛)

PROFILE

やました かずひろ
 1965年 北海道新冠町生まれ
 1988年 八戸工業大学建築工学科 卒業
 1988年 設計事務所 勤務(東京)
 1992年 設計事務所 勤務(札幌)
 2002年 アウラ 建築設計事務所 設立(札幌)

DATA

札幌市豊平区・Kさん宅
 家族構成/夫婦40代、子ども2人
 設計/アウラ建築設計事務所 山下 一寛
 ☎ 011-398-5541
 http://aura.sapr.jp/
 E-mail yamashita-aura@sapr.jp
 施工/(株)實和建設
 ☎ 0120-613-233
 http://www.jitsuwa.co.jp

■建築データ
 構造規模/木造・2階建て、延床面積/253.76㎡(約76坪)
 <主な外部仕上げ> 屋根/ガルバリウム鋼板、外壁/ジョリパット、建具/玄関ドア:アルミドア、窓:樹脂サッシ
 <主な内部仕上げ> 床/フローリング・塩ビタイル、壁・天井/ビニールクロス
 <断熱仕様> 床下/グラスウール24kg200mm、壁/グラスウール24kg100mm+FP板(B3)50mm、天井/グラスウール24kg300mm、屋根/FP板(B3)20mm
 <暖房方式> 蓄熱暖房+パネルヒーター+床暖房

■工事期間/平成22年7月~平成23年1月(約6ヵ月)
 ■工事費用/約4,700万円



道路側からの夕景



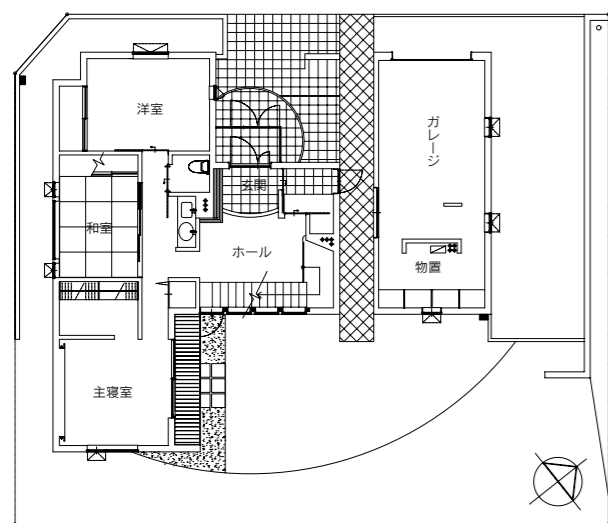
一日中まんべんなく光を届けてくれるハイサイドライトは、夜が近づくと月や星を楽しむことのできる贅沢なピクチャーウィンドウに



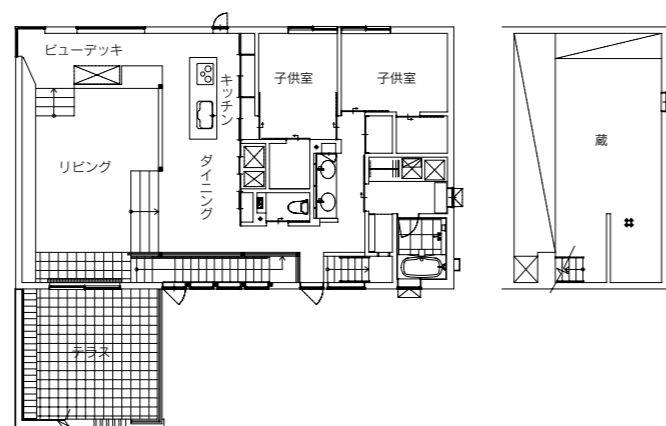
ダイニング・キッチンからリビング方向。道路に面した角には、室内に景色を取り込むためのコーナー窓を準備。外部からの視線が気になる壁面はハイサイドライトを設置することで存分に光を取り込んでいる



奥さんお気に入りのアイランド型キッチンと、直線的につながったダイニング。壁一面の背面収納で、雑多になりがちなものを全てすっきりと収納可能。一部は子ども部屋ともつながっている



1F



2F



2階の動線上に配置した洗面コーナー